

令和6年度 長森西小学校「保護者・児童 学校評価アンケート」について

◎成果

- ◎全体的に、「とてもよい」「だいたいよい」を合わせ 80%超となる評価が多い。
- ◎保護者児童共に、No.4、No.5、No.12は、90%超の評価である。

確かな学力

No.2「学習内容が身につけている」保 86% 児 85%

心の教育

No.4「仲間を思いやりたり自分を大切にしたりしている」保 90% 児 93%

No.5「仲間を差別したりいじめたりしていない」保 94% 児 91%

学校と地域の連携

No.12「地域の方から教えてもらったり見守ってもらったりしている」保 94% 児 91%

- ◎タブレット端末を活用し、仲間と情報を共有したり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする姿が増えた。電子黒板など、ICT機器を活用することで、学習内容の理解につながっている。
- ◎心のアンケートや教育相談、タブレット活用など、子ども達の心に寄り添い変化に素早く対応できたこと、また人権週間・ひびきあい活動では全校職員からの啓発、児童会・委員会・ボランティアによる「あいさつ」にかかわる啓発を放送で行うなど、自主的な動きが成果につながっている。
- ◎とぼら、さくらんぼ広場、放課後学びの部屋をはじめとして全学年において外部講師との授業や施設見学等を積極的に行ってきたことで、地域との関わりや子どもたちの学びの実感となった。

◇課題

- ◇No.1、No.6、No.8は、児童評価が昨年度比5%以上の「減少」である。

確かな学力

No.1「授業が楽しい分かりやすいと感じている」児 R5 88%→R6 83%

健康・安全

No.6「きまりを守り、仲間と活動することが楽しい」児 R5 94%→R6 88%

No.8「苦手と感じても、やりきろうとしている」児 R5 94%→R6 85%

- ロイロノートや電子黒板など、ICT機器を活用することが学習内容の確実な定着につながっているが、児童が「楽しい」と感じるためには、基礎・基本の定着に対する支援だけでなく、さらに学びを深めよう、広めようとしている児童に対する支援も必要である。ICT機器を効果的に活用しつつ、すべての児童が学びがいのある魅力的な授業をめざしていきたい。
- 学年や学級での活動、「なかよし」活動や、その関係性を生かした「なかよしフェスティバル」の計画運営等により「仲間と共に」の意識向上を図った。各活動が子どもたちにとって、「楽しい」といえる活動となるように仕組む必要がある。
- 自己決定する場を設けることや、やりきることができるための支援について意図的計画的に行う。チーム毎の指導の重点を踏まえ、児童に願いを持たせることや、目標に向かってやりきるためのPDCAサイクルを大切にす。